





## 地理歴史・公民(世界史B, 日本史B, 地理B, 政治・経済)問題

はじめに、これを読みなさい。

1. これは、世界史B, 日本史B, 地理B, 政治・経済の4科目の問題を綴じた冊子である。必要な科目を選択して解答しなさい。
2. 問題は全部で83ページある。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
3. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか、受験票と照合して確認すること。
4. 監督者の指示にしたがい、解答用紙の氏名欄に氏名を記入すること。
5. 監督者の指示にしたがい、解答用紙にある「解答科目マーク欄」に1つマークし、「解答科目名」記入欄に解答する科目名を記入しなさい。なお、マークしていない場合、または複数の科目にマークした場合は0点となる。
6. 解答は、すべて解答用紙の所定欄にマークするか、または記入すること。所定欄以外のところには何も記入しないこと。解答番号は各科目の最初に示してある。
7. 問題に指定された数より多くマークしないこと。
8. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれもHB・黒)で記入のこと。
9. 訂正する場合は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
10. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
11. 解答用紙はすべて回収する。持ち帰らず、必ず提出すること。
12. この問題冊子は必ず持ち帰ること。
13. マーク記入例

良い例	悪い例
	  

# 世界史 B

(解答番号 1～41, 101～109)

〔 I 〕 次の文章(1～2)を読み、下記の設問(1～10)に答えなさい。

1 人類は猿人、原人、旧人、新人へと進化した。新人はおよそ1万年前ごろまでにユーラシア、アフリカ、南北アメリカのほとんどの地域に広がっていった。この頃に最後の氷河期が終わり、地球上は温暖となった。それとともに旧石器時代が終わり、新石器時代が始まった。食料獲得の主要な方法も狩猟・漁労・採集から農耕・牧畜へと変わった。最古の農耕や牧畜はおよそ9000年前に西アジアで始まったと考えられている。さらに灌漑農業が始まると、都市が発生し、国家が形成された。金属器が出現し、文字も作られた。西アジアからアフリカ北東部一帯に広がるオリエント世界はその代表的なものである。

ティグリス川とユーフラテス川の流域の南メソポタミアでは、前3000年ごろにシュメール人が最古の文明を築いた。シュメール人の都市国家は前24世紀にアッカド人に征服されたが、ウル第3王朝として再興された。しかし前19世紀頃には古バビロニア王国(バビロン第1王朝)が盛えることになった。

ナイル川流域においては、前3000年ごろにエジプト最初の統一国家が登場した。王朝は交替を重ねたが、都を (1) においた古王国(前27～前22世紀)が衰退すると、都を (2) においた中王国(前21～前18世紀)が続いた。

問 1 下線部(ア)に関連し、誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(1)の記号にマークしなさい。

- A アウストラロピテクスやホモ＝ハピリスは猿人で、打製石器を用いるものもいた。
- B ジャワ原人や北京原人は原人で、火を使用した。
- C ネアンデルタール人やクロマニヨン人は旧人で、埋葬の風習があった。
- D 周口店上洞人やグリマルディ人は新人で、骨角器を使用した。

問 2 下線部(イ)に関連し、新石器時代の特徴とされる石器を何というか。その語句を解答番号(101)に記入しなさい。

問 3 下線部(ウ)に関連し、農耕の開始の説明として最も適したものを下から一つ選び、解答番号(2)の記号にマークしなさい。

- A インダス川の流域では稲を中心とした農耕が始まった。
- B 東南アジアではカボチャやトウモロコシを中心とした農耕が始まった。
- C 黄河の流域ではアワやキビなどを中心とした農耕が始まった。
- D アメリカ大陸ではタロイモを中心とした農耕が始まった。

問 4 下線部(エ)に関連し、シュメール人の説明として誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(3)の記号にマークしなさい。

- A シュメール人はウルク、ウル、ラガシュを建設した。
- B シュメール人は太陰暦を発達させた。
- C シュメール人は楔形文字を作った。
- D シュメール人はハンムラビ法典を完成させた。

問 5 空欄(1)と(2)に入れる語の組合せとして最も適したものを下から一つ選び、解答番号(4)の記号にマークしなさい。

(1)

(2)

- |   |            |            |
|---|------------|------------|
| A | メンフィス      | テル=エル=アマルナ |
| B | テル=エル=アマルナ | メンフィス      |
| C | テーベ        | テル=エル=アマルナ |
| D | メンフィス      | テーベ        |

2 前 2000 年紀に入ると、インド=ヨーロッパ語系の民族が南下を始め、オリエント一帯は諸勢力の興亡が著しい世界となった。ヒッタイトは馬と戦車を使用し、古バビロニア王国を滅ぼした。エジプトは侵入したヒクソスに支配され、中王国の時代が終わった。その後ヒクソスを追放して、新王国(前 16～前 11 世紀)が成立した。またメソポタミアとエジプトには含まれたシリア・パレスティナ地方では前 1200 年ごろからアラム人・フェニキア人・ヘブライ人の活動が目立つようになった。

しかし北メソポタミアからおこったアッシリアが前 7 世紀前半に全オリエントの主な部分を初めて統一した。アッシリアが服属民の反抗で崩壊すると、この地域には 4 王国が分立することになった。その後の前 6 世紀にはアケメネス朝(前 550～前 330 年)がおり、東はインダス川から西はエーゲ海北岸にいたる大帝國を建設した。

問 6 下線部(オ)に関連し、古代エジプトの説明として誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(5)の記号にマークしなさい。

- A 古代ギリシアの歴史家ヘロドトスは「エジプトはナイルのたまもの」と言った。
- B ピラミッドが最も盛んに建設されたのは、新王国においてである。
- C ファラオとは古代エジプトの王の称号である。
- D エジプト文字には神聖文字・神官文字・民用文字があった。

問 7 下線部(カ)に関連し、最も適したものを下から一つ選び、解答番号(6)の記号にマークしなさい。

- A アラム人・フェニキア人・ヘブライ人は「海の民」と言われた。
- B アラム人・フェニキア人・ヘブライ人はセム語系の民族である。
- C アラム人はシドンを首都とした。
- D ヘブライ人のユダ王国はアッシリアに滅ぼされ、住民は強制移住させられた。

問 8 下線部(キ)に関連し、4王国の組合せとして最も適したものを下から一つ選び、解答番号(7)の記号にマークしなさい。

- A エジプト・新バビロニア・メディア・リディア
- B エジプト・カッシート・ミタンニ・メディア
- C イオニア・カッシート・パルティア・ミタンニ
- D イオニア・新バビロニア・パルティア・リディア

問 9 下線部(ク)に関連し、誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(8)の記号にマークしなさい。

- A アケメネス朝はインド＝ヨーロッパ語系の民族がおこした。
- B 「王の目」「王の耳」とよばれる王直属の監察官が各地に派遣された。
- C ゴロアスター教をもとにして、マニ教が成立した。
- D アケメネス朝を滅ぼしたアレクサンドロス大王が死ぬと、セレウコス朝がおこった。

問10 下線部(ケ)と同時期の出来事として最も正しくないものを下から一つ選び、解答番号(9)の記号にマークしなさい。

- A アテネではペリクレスが民主政治を確立した。
- B ローマでは護民官と平民会が設置された。
- C 中国では秦の始皇帝が初めて統一を完成した。
- D インドではジャイナ教や仏教が成立した。

〔Ⅱ〕 次の文章(1～3)を読み、下記の設問(1～12)に答えなさい。

1 ゲルマン民族の大移動にともなう激動の中で、古代地中海世界は衰退した。それから数世紀を経てヨーロッパの東西に独自の性格をもつ文明世界が生まれた。

西ヨーロッパでは封建的主従関係と荘園という二つの仕組みのうえに成り立つ西ヨーロッパ中世社会に特有の封建社会が形成された。封建社会が最盛期を迎えた11～13世紀には農業技術も進歩<sup>(ア)</sup>し、農業生産が増大した。

東ローマ帝国(ビザンツ帝国)は西ローマ帝国の滅亡後も勢力圏の拡大、縮小を繰り返しながらも約千年にわたって存続し、ギリシア正教とギリシア古典文化を融合した独自の文化的世界をつくった。6世紀にビザンツ帝国北側の広大な地域に広がったスラヴ系諸民族の多くや非スラヴ系の諸民族の一部<sup>(イ)</sup>はビザンツ帝国とビザンツ文化の影響のもとで自立と建国の道を歩んでいった。

農業生産の増大の結果余剰生産物の交換が活発化し、人口の増大、さらには十字軍の影響等もあいまって11～12世紀には遠隔地貿易も含む商業と都市の発達がみられた。北イタリアの港市などを拠点に地中海商業圏が活況を呈し、さらに北海、バルト海を中心として北ヨーロッパ商業圏も成立した。商工業の発展とともに都市も力を強めて自治権を獲得し、北ドイツ諸都市のハンザ同盟や北イタリアの諸都市による (1) などの都市同盟が結成された。

問 1 下線部(ア)に関連する説明で誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(10)の記号にマークしなさい。

- A 封建的主従関係は、ゲルマンの恩貸地制度とローマの従士制とが結びついて成立したものとみなされている。
- B 封建的主従関係では主君と家臣の双方に契約を守る義務があった。
- C 主君と家臣の契約は一代限りのものであったが、やがて世襲化した。
- D 封建的主従関係のもとでの支配体制は地方分権的で、多くの騎士を家臣として従えた大諸侯は国王にならぶ権力をもって自立していた。

問 2 下線部(イ)に関連する説明で最も正しくないものを下から一つ選び、解答番号(11)の記号にマークしなさい。

- A 土壌を深く耕すために牛馬に重量有輪犁をひかせる農耕法が普及した。
- B 耕地は垣や堀で仕切られない開放耕地が多く、主要な農作業も共同で行われた。
- C 耕地を春耕地、秋耕地、共同放牧地の三つに分け、3年で一巡させる三圃制が普及した。
- D 播種量の3倍程度であった麦の収穫は、6倍前後にまで向上した。

問 3 下線部(ウ)に関連する説明で誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(12)の記号にマークしなさい。

- A 6世紀のコンスタンティヌス帝のときイタリア半島と北アフリカ北岸を奪回し、ローマ帝国領の大半を回復した。
- B 7世紀にはササン朝ペルシアやイスラーム勢力の進出などによってビザンツ帝国は次第に支配圏を縮小させ、バルカン半島とアナトリアを残すだけとなった。
- C 8世紀前半のレオン3世のもとでの諸改革等を経て9世紀後半からふたたび繁栄の時代を迎えた。
- D 13世紀はじめ第4回十字軍により首都が一時占領されラテン帝国がたてられるなど国内は大きく混乱した。

問 4 下線部(エ)に関連する説明で誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(13)の記号にマークしなさい。

- A ドニエプル川流域に建国されたキエフ公国ではビザンツ帝国と交流を重ね、ウラディミル1世のときにギリシア正教を国教とした。
- B 南スラヴ系のクロアチア人はギリシア正教を受け入れて独立を達成し、10～11世紀に最盛期を迎えた。
- C バルカン半島に南下したセルビア人は、14世紀前半にバルカン半島北部を統合した。
- D アジア系のブルガール人は7世紀末ブルガリア王国を建国し、その後スラヴ化してギリシア正教に改宗した。

問 5 空欄(1)にあてはまる最も適切な語句を解答番号(102)に記入しなさい。

2 近世ヨーロッパでは教皇や皇帝のような普遍的権力が衰える中で、各国が独立性を強め、自己の支配領域を明確な国境で囲い込み、国内の統一的支配を行う主権国家が形成されてくる。そのきっかけとなったのがイタリア戦争であった。それと重なるように展開された宗教改革(オ)と呼ばれる動きも、皇帝や君主をまきこむ政治問題に発展し、教皇や皇帝の権威を揺るがし、主権国家群の形成をさらに進めることになった。

17世紀のヨーロッパは、気候の寒冷化もあって凶作や疫病が波状的に来襲し、経済の不振、人口の停滞に見舞われた。17世紀のなかばは全ヨーロッパ的規模の危機の時代となった。17世紀前半のドイツを中心にして起こった三(キ)十年戦争もその一つのあらわれであった。

問 6 下線部(オ)に関連する説明で誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(14)の記号にマークしなさい。

- A この戦争は、1494年フランス軍のイタリア侵入が発端となって始まった。
- B この戦争は、ハプスブルク家とフランス王家との間でのヨーロッパの覇権をめぐる争いとなり、イギリスなど多くの国をまきこんで行われた。
- C 長期にわたって続いたイタリア戦争の過程では同盟関係が複雑に変化し、各国は勢力均衡の考えにたって同盟外交をくりひろげた。
- D カトー＝カンブレジ条約では、フランスがミラノ・ナポリ・サルデーニャなどを獲得し、イタリア進出を果たした。



問 7 下線部(カ)に関連する説明で誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(15)の記号にマークしなさい。

- A ドイツの神学者マルティン＝ルターは1517年贖宥状(免罪符)の悪弊を攻撃する九十五カ条の論題を提起した。
- B ルターの教えに触発された西南ドイツの農民がドイツ農民戦争をおこし、ミュンツァーの指導のもとで農奴制の廃止などを求めた。
- C 皇帝カール5世は、オスマン帝国のウィーン包囲などの国際情勢のため、一時ルター派を容認したが、その後再びルター派の布教を禁止した。
- D 1555年のアウクスブルクの宗教和議により個人の信仰の自由が認められた。

問 8 下線部(キ)に関連する説明で誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(16)の記号にマークしなさい。

- A ハンガリーの新教徒がハプスブルク家によるカトリック信仰の強制に反抗したのを機に三十年戦争がはじまった。
- B 新教国デンマーク、スウェーデンが新教側援助を名目に参戦した。
- C 旧教国フランスが新教側にたって参戦し、宗教的対立をこえた大規模な国際戦争に発展した。
- D 1648年のウェストファリア条約によって、ドイツの諸侯の主権がほとんど完全に承認され、神聖ローマ帝国における諸侯の分立状態は決定的となった。

3 フランス革命・ナポレオン戦争の戦後処理のために開かれたウィーン会議によって成立したウィーン体制は、1848年革命によって最終的に崩壊した。

ヨーロッパ各地での自由や自決権をもとめる多様な運動の高まりが自由主義やナショナリズムをおさえようとした国際的反動体制をつきくずしたのである。

19世紀の後半に入るとヨーロッパは好況期を迎え、自由主義が西欧諸国を中心に発展したが、他方で未だ統一国家を形成していないところ、他国の支配下にあるところでの独立や国家統一を求めるナショナリズムが各地で高揚しはじめる。こうした中で実現されたイタリアの統一やドイツの統一は、ヨーロッパ内の政治的再編を意味するものであった。

問9 下線部(ケ)に関連する説明で誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(17)の記号にマークしなさい。

- A ウィーン会議の基本原則としてフランス革命前の主権と領土を正統とする正統主義がフランスのギゾーによって提唱された。
- B 各国の利害が対立して審議がなかなか進展せず「会議はおどる、されど進まず」と風刺された。
- C 大国間の勢力均衡による国際秩序の維持が追求された。
- D ウィーン議定書が採択され、スイスの永世中立なども承認された。

問10 下線部(ケ)に関連する説明で誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(18)の記号にマークしなさい。

- A フランスの二月革命ではパリの民衆蜂起で国王シャルル10世がイギリスに亡命し、共和派の臨時政府が樹立された。
- B ウィーン三月革命では自由と憲法を求める民衆の蜂起によりメッテルニヒを失脚させた。
- C プロイセンの首都ベルリンでも民衆蜂起があり、国王は憲法制定を約束し、自由主義者の内閣が誕生した。
- D ベーメンではチェック人がオーストリアに対する自立を求めて蜂起を行った。

問11 下線部(□)に関連する説明で誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(19)の記号にマークしなさい。

- A 1848年革命の失敗後、上からのイタリア統一をめざす勢力の拠点となったのはサルデーニャ王国であった。
- B イタリア統一をめぐるオーストリアとの戦争で、プロンビエール密約を結んでフランスの支援を得たサルデーニャ王国が勝利した。
- C 千人隊とよばれる義勇軍を率いたマッツィーニは両シチリア王国を占領し、これをサルデーニャ王にゆずった。
- D サヴォイアとニースをフランスにゆずることでサルデーニャ王国は中部イタリアを併合した。

問12 下線部(㉔)に関連する説明で誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(20)の記号にマークしなさい。

- A プロイセン首相に任じられたビスマルクは「鉄血政策」によって統一の主導権を握った。
- B プロイセン＝オーストリア戦争に勝利したプロイセンは、ドイツ連邦を解体し、プロイセンを盟主とする北ドイツ連邦を成立させた。
- C プロイセンの拡大強化を恐れたフランスとの戦争でプロイセンが勝利し、敗北したフランスはアルザス・ロレーヌを割譲した。
- D 1871年ドイツ帝国が成立し、ヴィルヘルム1世が首都ベルリンでドイツ帝国皇帝に即位した。

〔Ⅲ〕 次の文章(1～3)を読み、下記の設問(1～8)に答えなさい。

1 19世紀末には欧米列強は資源や市場を求めて対外進出を進め、植民地の獲得や勢力圏の拡大をめぐる世界各地で対立を激化させた。遅れて列強の世界分割に参加したドイツは、3C政策などでアジア、アフリカでの勢力拡大を図るイギリスに対抗して、3B政策などによって西アジア方面への進出を果たそうとした。諸列強はさらに<sup>(ア)</sup>三国協商、三国同盟などを通じて、イギリスとドイツをそれぞれの中心とする二つの陣営に分かれ、軍備拡大など相互の対立を深めていった。

こうした列強の二極化のもとで、パン＝スラヴ主義とパン＝ゲルマン主義の激突など民族主義的対立が激化し、とよばれたバルカン半島で起きたサラエヴォ事件をきっかけに第一次世界大戦が始まった。通常の戦争としてはじまったこの戦争は、予想に反して長期化し、イギリス、フランスなどの協商国(連合国)側とドイツ、オーストリアなどの同盟国側との総力戦となった。植民地からの大勢の兵士、労働者の動員や大量の物資の徴発を含む、物量戦、消耗戦となるとともに、航空機、毒ガス、戦車などの新兵器が投入されるなど戦争の形態も大きく変化した。

第一次世界大戦末期のロシアではパンと平和を求める民衆のデモやストライキの広がりの中で帝政が崩壊し、ロシア革命が発生した。ロシアの革命政府は<sup>(イ)</sup>ドイツとの単独講和に踏み切り、ブレスト＝リトフスク条約を結んだ。

さらにドイツでも1918年11月の水兵の反乱をきっかけにドイツ革命が発生し、皇帝が退位し、連合国側と休戦条約が結ばれ、第一次世界大戦が終結した。

問1 下線部(ア)の3B政策とはどこどこを結ぶ政策であるか、その三つの都市の名称を、解答番号(103)に記入しなさい。

問2 空欄(1)にあてはまる最も適当な語句を解答番号(104)に記入しなさい。

問 3 下線部(イ)に関連する説明で誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(2)の記号にマークしなさい。

- A 三月革命では皇帝ニコライ 2 世を退位させ、立憲民主党を中心とする臨時政府が樹立された。
- B 1917 年 4 月亡命先のスイスから帰国したレーニンは「すべての権力をソヴィエトへ」とする四月テーゼを発表した。
- C 1917 年 11 月ボリシェヴィキが武装蜂起し、トロツキーが率いる臨時政府を打倒し、ソヴィエト政権を樹立した。
- D ソヴィエト政権は、地主の土地を無償で没収するなど土地の私有権を廃止する「土地に関する布告」を出した。

問 4 空欄(2)にあてはまる最も適当な語句を解答番号(105)に記入しなさい。

2 第一次世界大戦を経て国際政治の枠組みも大きく変化した。パリ講和会議でまとめられたヴェルサイユ条約をはじめとする一連の講和条約がもととなって成立したヴェルサイユ体制は、アジア・太平洋地域のワシントン体制とともに1920年代の国際秩序を形成した。

1929年10月のニューヨーク株式市場での株価暴落にはじまる世界恐慌は、資本主義国の経済を大きくゆるがし、社会全体の危機を招いた。これに対し米・英・仏はブロック経済の方向で対応した。他方、ドイツ・イタリア・日本はファシズム、全体主義体制をとって他国への侵略による危機克服の方向に向かい、三国枢軸を形成し、第二次世界大戦へと突き進んでいく。

1939年9月ポーランドに侵攻したドイツに英仏が宣戦して開始された第二次世界大戦は、1941年独ソ戦と太平洋戦争の開始とともに、枢軸国(ファシズム陣営)側と連合国(反ファシズム陣営)側との文字通りの世界戦争となった。この戦争は1945年8月日本の(3)の受諾により連合国側の勝利で終わったが、軍人、民間人あわせて数千万人にのぼるといわれる人類史上最大の犠牲者を出した。

問 5 下線部(ウ)に関連する説明で誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(2)の記号にマークしなさい。

- A パリ講和会議ではアメリカ合衆国大統領ウィルソンが発表した十四カ条の平和原則をもとに講和が議論された。
- B ヴェルサイユ条約でドイツはすべての植民地を失い、巨額の賠償金の支払いが課せられた。
- C オーストリアとサン＝ジェルマン条約が結ばれ、オーストリア＝ハンガリー帝国は解体された。
- D ウィルソンが提唱した国際連盟の設置が決められ、その後の国際連盟の運営はアメリカ合衆国が主導した。

問 6 空欄(3)にあてはまる最も適切な語句を解答番号(106)に記入しなさい。

3 2つの世界大戦を経て世界は大きく変化した。まず、19世紀に世界を主導したイギリスをはじめとする西ヨーロッパの凋落、地位の低下である。

かわって第二次世界大戦で連合国側を勝利に導く上で大きく貢献したアメリカ合衆国とソ連が台頭した。この両国は戦後世界が資本主義陣営と社会主義陣営(東西両陣営)に分かれて相対立する中で、それぞれの主軸となって戦後世界を主導した。資本主義陣営においてアメリカ合衆国が主導して通貨、経済面についてはブレトン＝ウッズ体制<sup>(エ)</sup>などを、軍事面では北大西洋条約機構などの体制を築いた。

戦後世界のもう一つ注目すべき新しい動きは、アジア、アフリカなどの植民地の独立、民族自決の動きである。これら独立した諸国などからは米ソ両陣営のいずれにも属さず積極的中立の立場から第三世界をめぐり<sup>(オ)</sup>動きが生まれ、戦後国際政治に大きな影響を与えるようになった。

問 7 下線部(エ)に関連する説明で誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(23)の記号にマークしなさい。

- A 1944年7月連合国側代表がアメリカ合衆国のブレトン=ウッズに集まって戦後の国際経済の枠組みについての会議が行われた。
- B ブレトン=ウッズ協定によって国際通貨基金(IMF)と国際復興開発銀行(IBRD)が1945年12月に設立された。
- C アメリカ合衆国のドルが国際的な基軸通貨となり、ドルと金との交換比率は金1オンス=100ドルとされた。
- D ブレトン=ウッズ協定とともに1947年「関税と貿易に関する一般協定」(GATT)が締結された。

問 8 下線部(オ)に関連する説明で誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(24)の記号にマークしなさい。

- A 1954年ネルー・毛沢東会談が行われ、領土保全と主権の尊重、内政不干渉、平和共存などからなる平和五原則が発表された。
- B 1955年インドネシアのバンドンで、アジア・アフリカ29カ国の代表が参加してアジア=アフリカ会議が開かれた。
- C バンドン会議では、平和共存・反植民地主義などをうたった平和十原則が採択された。
- D 1961年ユーゴスラヴィアのティト大統領などのよびかけでアジア・アフリカ・ラテンアメリカの25カ国の代表がベオグラードに集まって第1回非同盟諸国首脳会議が開かれた。

〔IV〕 大航海時代におけるオランダ・イギリス・フランスに関する次の文章を読み、下記の設問(1～10)に答えなさい。

オランダはスペインからの独立後、ヨーロッパの商業・金融の中心となる一方で、アジア貿易にも積極的に進出した。1602年には東インド会社を設立し、その後、現在のジャカルタにあたる〔1〕に拠点を築きつつアジア貿易の勢力を拡大した。モルッカ諸島では、1623年に対抗勢力のイギリス商館員を虐殺し、イギリス勢力を追い出すなどして〔2〕の主産地を独占的に支配した。イギリスとはその後いわゆる英蘭戦争をすることになる。

一方、イギリスは東インド会社の拠点をマドラス・ボンベイ・〔3〕などに求め、インド経営に重点をおいた。また北米においては1585年ごろローリが命名した〔4〕への植民を皮切りに、18世紀前半までに東海岸一帯に〔5〕の植民地を形成した。

北米においてはフランスも1608年にケベック植民地を建設してカナダ一帯に進出し、1682年にはミシシッピ川流域を占領して植民地〔6〕を開いた。アジアにおいてはコルベールが東インド会社を再建し、シャンデルナゴル・〔7〕を拠点としたが、その後インドにおけるイギリスとの植民地抗争においてフランスの優位を確立・維持したのは〔8〕総督の時代である。

問1 空欄(1)・(3)・(7)にはオランダ、イギリス、フランスのそれぞれの東インド会社が拠点とした地名が入る。その組み合わせとして最も適したものを下から一つ選び、解答番号(25)の記号にマークしなさい。

- | (1)     | (3)   | (7)     |
|---------|-------|---------|
| A バタヴィア | カルカッタ | ボンディシェリ |
| B バタヴィア | デリー   | ゴア      |
| C マタラム  | カルカッタ | ゴア      |
| D マタラム  | デリー   | ボンディシェリ |



問 2 下線部(ア)に関する記述として最も適したものを下から一つ選び、解答番号(26)の記号にマークしなさい。

- A モルッカ諸島はインドネシア東部の島々で、16世紀初頭にマゼラン遠征隊がポルトガル王の援助を受けて来航している。
- B モルッカ諸島はインドネシア東部の島々で、16世紀初頭にマゼラン遠征隊がスペイン王の援助を受けて来航している。
- C モルッカ諸島はフィリピン中部の島々で、16世紀初頭にマゼラン遠征隊がポルトガル王の援助を受けて来航している。
- D モルッカ諸島はフィリピン中部の島々で、16世紀初頭にマゼラン遠征隊がスペイン王の援助を受けて来航している。

問 3 下線部(イ)について、この事件を何というか。解答番号(107)に記入しなさい。

問 4 空欄(2)に最も適したものを下から一つ選び、解答番号(27)の記号にマークしなさい。

- A 茶
- B 香辛料
- C 銀
- D コーヒー

問 5 下線部(ウ)の英蘭戦争の説明として最も適したものを下から一つ選び、解答番号(28)の記号にマークしなさい。

- A オランダが制定した航海法が戦争の発端となった。
- B 戦争を推し進めたのは共和政下のチャールズ二世である。
- C 戦争は第1次、第2次、第3次の三度にわたり行われた。
- D 戦争の結果、ニューヨークの一部がニューアムステルダムとして割譲された。

問 6 下線部(エ)に関する説明として誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(29)の記号にマークしなさい。

- A 東インド会社はエリザベス一世が設立した。
- B 東インド会社にはインド以東のアジア全域での貿易独占権が与えられた。
- C 東インド会社の主力商品の一つは綿布であった。
- D 東インド会社の活動によって大量の金や銀がインドに流入した。

問 7 空欄(4)・(6)にはイギリス、フランスがそれぞれ植民した北米の地名が入る。その組み合わせとして最も適したものを下から一つ選び、解答番号(30)の記号にマークしなさい。

- |   | (4)    | (6)    |
|---|--------|--------|
| A | ルイジアナ  | フロリダ   |
| B | ヴァージニア | フロリダ   |
| C | ルイジアナ  | ヴァージニア |
| D | ヴァージニア | ルイジアナ  |

問 8 空欄(5)に最も適したものを下から一つ選び、解答番号(31)の記号にマークしなさい。

- A 13                      B 14                      C 15                      D 16

問 9 下線部(オ)に関し、いわゆるコルベール主義の説明として誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(32)の記号にマークしなさい。

- A 貿易黒字を目指し、保護貿易を行った。
- B 王立マニュファクチュアを廃止した。
- C ルイ 14 世による絶対王政の追求を背景とした。
- D 金・銀を蓄えることが国家の繁栄の道であると考えた。

問10 空欄(8)に最も適したものを下から一つ選び、解答番号(33)の記号にマークしなさい。

A アルブケルケ

B ドレーク

C クライヴ

D デュプレクス

〔V〕 インドの歴史に関する次の文章を読み、下記の設問(1～10)に答えなさい。

4世紀前半に建てられたグプタ朝は、チャンドラグプタ (1) 世の時代に北インドの大部分を統一した。グプタ朝の時代には (2) などを主神とするヒンドゥー教が社会に定着していった。北インドはグプタ朝の瓦解後、7世紀前半に一時 (3) 朝によって統一されたが、その解体後は各地のヒンドゥー教諸王国に分立した。10世紀後半からはイスラーム教の (4) 朝による北インドへの侵略がはじまり、13世紀のはじめにはゴール朝の武将アイバクがインドで最初のイスラーム王朝をデリーに建設した。それ以降16世紀初頭まで続いた (5) 朝と呼ばれる5つのイスラーム王朝は、内部にヒンドゥー教徒の既存の小王朝の大幅な自治を認めていたため、インドのヒンドゥー社会は温存された。1526年には中央アジアのティムールの子孫であるバーブルが最後の (5) 朝であるロディー朝を破り (6) 朝を建てた。彼の孫で第3代のアクバルは北インドからアフガニスタンにいたる大帝國を築いた。またヒンドゥー教徒の諸侯との婚姻関係を結び彼らを軍に組みこみ、ヒンドゥー教徒への (7) を廃止するなどの融和政策もおこなった。しかし第6代のアウラングゼーブはデカンの平定を目指すとともに、ヒンドゥー教徒への (7) を復活させ、ヒンドゥー寺院の破壊などをおこなった。17世紀後半にはデカンのヒンドゥー王国である (8) 王国が (6) 帝国への抵抗を強め、帝国は宗教戦争の長期化に悩まされていった。アウラングゼーブの死後、同帝国は弱体化し、1757年の (9) によってイギリス東インド会社にベンガルの徴税権などを奪われた。その後、幾度かの戦いを通じ、19世紀半ばまでにインド全域がイギリスの支配下にはいった。インド国民会議は反英的な民族運動を展開したが、イギリスはムスリムとヒンドゥー教徒の宗教対立を利用してそれを分裂させようとし、1905年に (10) を発表した。

問1 空欄(1)に最も適したものを下から一つ選び、解答番号34の記号にマークしなさい。

A 1

B 2

C 3

D 4



問 8 空欄(8)に最も適したものを下から一つ選び、解答番号(40)の記号にマークしなさい。

A マラッカ

B マドラス

C マラーター

D マイソール

問 9 空欄(9)に最も適したものを下から一つ選び、解答番号(41)の記号にマークしなさい。

A シパーヒー(セポイ)の乱

B プラッシーの戦い

C カーナティック戦争

D シク戦争

問10 空欄(10)に最も適した語句を解答番号(109)に記入しなさい。